



建物長手端部に位置する体験学習室。曲面の屋根なりに木造トラスが近くまで迫ってくる。



シンボルツリーを中心とした交流パティオでは内外の空間が連続し、様々なアクティビティが交差する。



自然学習を行う学習ホールは大開口によって自然と連続する。

# 石川県森林公園インフォメーションセンター わくわく森林ハウス

漆崎 義和 / 金沢計画研究所

「わくわく森林ハウス」は、森林の保全と健康づくり・野外学習がテーマの石川県森林公園内に位置し、活動と交流機能の拡充基地をめざす森林文化体験学習施設である。具体的には公園のインフォメーションをはじめ、体験・展示による自然との触れ合いや学習を行う場づくりである。

## 設計プログラム

- ① 駐車場として平坦にされる前の丘状地形を建物によって復元し可視化する。
- ② 自然と建築の対話を明確にするために、建築内部が森林のある自然環境に対して開放的に連なる面と、駐車場などの人工環境に対して壁によって閉鎖的となる面とを対比的にデザインすること。また中央部に中庭をとり、オアシス的外部空間をとる。
- ③ 地元産木材 100% 利用を目指すと共に、木の空間の楽しさや驚きを表現する。

この3つを、建築に要求された諸室とその機能を満たしながら完成させたのが本建築である。

主体構造として建物長手方向両側に1間半の立体フレームを配して主に建物全体の水平方向の剛性・耐力を確保し、中央の7間中に集成材とスチール斜材を組合せた一方方向平行弦トラスを連続に架け、フレキシビリティのある大空間を実現し、展示ギャラリーや学習ホールとしている。柱・梁等の構造材、外壁や内装等の仕上材、建具、展示什器・家具等、建物全てに県産材のスギ・マツ・能登ヒバを使用し、地元産材の利用の促進に寄与すると同時に、木のぬくもりを大切にしながら地形や森林環境に同調させている。

主要用途：公園管理事務所・ギャラリー・ホール・レストラン  
 構造・規模：木造平屋建て  
 所在地：石川県河北郡津幡町津幡工14  
 面積：建築面積 1,143㎡、延床面積 990㎡



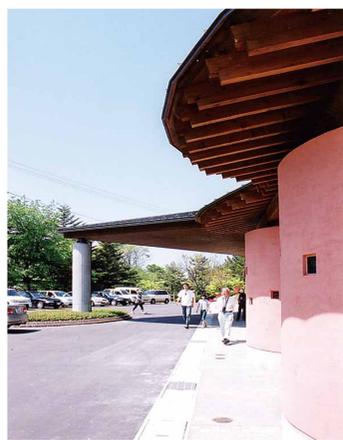
エントランスタ景



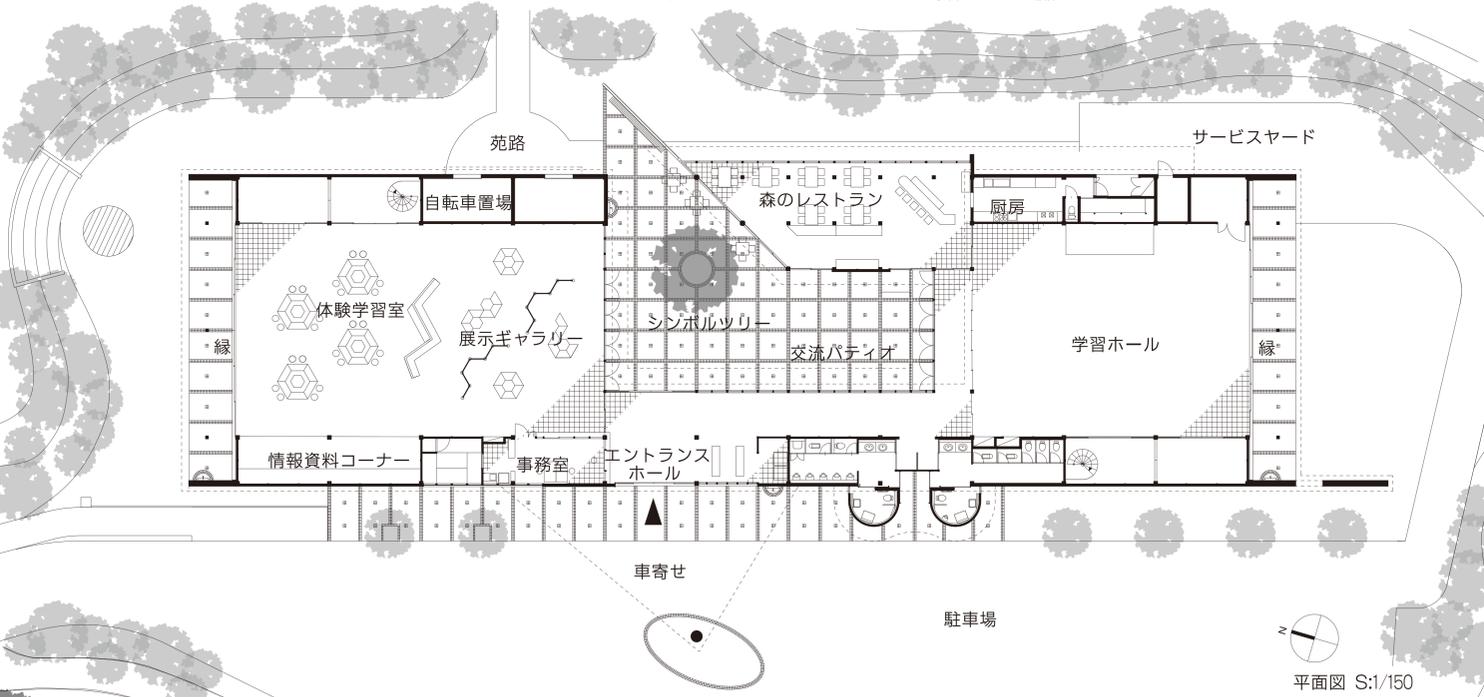
交流パティオタ景



7間のスパンにハイブリッドの木造平行弦トラスが架かる体験学習室と展示ギャラリー。トラスはエントランスホールや学習ホールまで連続する。



楽しげで様々な形状の屋根で来館者を出迎える



駐車場からの外観全景。駐車場として平坦にされる前の丘状地形を建物シルエットによって復元、可視化する。